

平成29年度大学院看護学研究科修士課程  
授業評価実施科目一覧(後期)

No.	コード	授業科目名	科目責任者	共同担当教員	履修者数
1	M00102	基礎看護学特講Ⅱ	高田 早苗	川原 由佳里	5
2	M00104	基礎看護学特講Ⅳ	川原 由佳里	高田 早苗・石原 美和	4
3	M00202	がん看護学特講Ⅱ	守田 美奈子	大西 秀樹・濱口 恵子	5
4	M00204	がん看護学特講Ⅳ	守田 美奈子	吉田 みつ子・遠藤 公久	4
5	M00205	がん看護学特講Ⅴ	吉田 みつ子	茅根 義和・小笠原 利枝	4
6	M00303	小児看護学特講Ⅲ	江本 リナ	関根 弘子	2
7	M00401	成人看護学特講Ⅰ	本庄 恵子		5
8	M00503	クリティカルケア看護学特講Ⅲ	和田 美也子	三浦 英恵	3
9	M00504	クリティカルケア看護学特講Ⅳ	和田 美也子	三浦 英恵	3
10	M00603	慢性看護学特講Ⅲ	田中 孝美	本庄 恵子・東 めぐみ	3
11	M00604	慢性看護学特講Ⅳ	本庄 恵子	田中 孝美・関根 光枝	3
12	M00703	老年看護学特講Ⅲ	千葉 京子		1
13	M00704	老年看護学特講Ⅳ	坂口 千鶴		1
14	M00803	精神保健看護学特講Ⅲ	小宮 敬子		9
15	M00903	地域・在宅看護学特講Ⅲ	吉川 悦子	石田 千絵・月野木 ルミ・秋山 正子	4
16	M00904	地域・在宅看護学特講Ⅳ	石田 千絵	吉川 悦子・月野木 ルミ・平原 優美・宮崎 和加子	4
17	M01003	看護教育学特講Ⅲ	西田 朋子		7
18	M01004	看護教育学特講Ⅳ	佐々木 幾美		3
19	M01005	看護教育学特講Ⅴ	佐々木 幾美	西田 朋子	6
20	M01006	看護教育学特講Ⅵ	佐々木 幾美		8
21	M01102	看護管理学特講Ⅱ	安部 陽子		4
22	M01104	看護管理学特講Ⅳ	前田 久美子	荒井 耕・阪口 博政	4
23	M01106	病院管理論	前田 久美子	笈 淳夫	5
24	M01216	災害看護学特講Ⅱ	浦田 喜久子	亀井 縁・石田 千絵・内木 美恵	1
25	M01218	災害看護学特講Ⅳ	小原 真理子	井上 忠男・永井 幸寿	1
26	M01314	英語講読Ⅱ	川崎 修一		6
27	M01316	看護科学特講	筒井 真優美		22
28	M01319	情報科学特講	逸見 功		3
29	M01323	学生理解	遠藤 公久		8
30	M01328	看護理論	川原 由佳里		9
31	M01330	コンサルテーション論	古城門 靖子	小宮 敬子・鷹野 朋実・堀井 湖浪・赤沢 雪路・曾根原 純子・腰原 麻衣子・谷口 美穂	14
32	M01331	看護倫理	高田 早苗	吉田 みつ子	27
33	M01332	看護政策論	安部 陽子		1
34	M01335	臨床薬理学	石田 耕太	植松 和子・坂口 千鶴・川名 るり・堀井 湖浪	14
35	N00102	ウィメンズ・ヘルス・プロモーション研究論	井村 真澄	齋藤 英子・新田 真弓	1
36	N00103	ウィメンズ・ヘルス・プロモーション活動論	井村 真澄		15
37	N00202	国際保健助産論Ⅱ	水野 真希		15
38	N00203	国際保健助産論Ⅲ	井村 真澄		15
39	N00306	看護政策論	安部 陽子		7
40	N00307	コンサルテーション論	古城門 靖子	小宮 敬子・鷹野 朋実・堀井 湖浪・赤沢 雪路・曾根原 純子・腰原 麻衣子・谷口 美穂	1
41	N00404	基礎助産学特講Ⅱ-2	小林 丈人		14
42	N00462	応用助産学特講Ⅱ	喜多 里己	安部 陽子	14

2017(平成29)年度 後期 授業改善アンケート(大学院)

修士課程(看護学専攻・国際保健助産学専攻)  
修士課程講義科目(42科目)

履修登録者数 285  
未提出者数 92  
提出者数 193  
提出率 68%

\*集計について  
平均は、小数点第3位を四捨五入して算出しています。  
\*選択肢について  
5)強くそう思う 4)そう思う 3)どちらともいえない 2)そうは思わない 1)全くそうは思わない

設問番号	設問文	5	4	3	2	1	平均
------	-----	---	---	---	---	---	----

a. 教育技術

設問1	教員が提示した文献・資料などは学習を進めるのに役立つ。	76	108	6	2	0	4.35
設問2	教員の説明や発問、意見交換の促し方/ファシリテートの仕方は適切だった。	86	99	5	2	0	4.40
設問3	課題提示の方法は適切だった。	70	105	16	1	0	4.27

b. 教育内容

設問4	授業の内容や範囲は適切であった。	79	104	8	1	0	4.36
設問5	授業分野に関する基本的概念や新たな知見や考えなどを深めることができた。	108	80	2	2	0	4.53
設問6	授業に参加してさらに当該科目への興味をもち、深く学びたいと思った。	91	90	7	2	2	4.38

c. 授業の進行・展開

設問7	授業を受ける上での重要な情報はシラバス、その他配布資料等で示されていた。	76	101	12	3	0	4.30
設問8	授業はシラバスの趣旨と内容に沿って展開されていた。	74	107	10	1	0	4.32
設問9	授業の進行速度は適切だった。	70	113	6	3	0	4.30

d. 熱意・相互作用

設問10	教員の熱意が伝わってきた。	106	81	3	1	1	4.51
設問11	教員は院生間の議論や協力、学習の促進を刺激するよう関わっていた。	88	94	8	1	1	4.39
設問12	教員は大学院生の反応や意見、質問に適切に対応した。	97	88	6	0	1	4.46

e. 学生の自己評価

設問13	あなたは授業に意欲的/主体的・積極的に取り組みましたか(自分のプレゼンテーションを含む)。	77	102	9	3	1	4.31
設問14	あなたは他の大学院生の学習を刺激するような意見交換ができましたか。	56	94	37	5	0	4.04
設問15	あなたは、事前学習・事後学習をして取り組みましたか。	63	109	18	2	0	4.21

d. 自由記載

設問16	この授業に対して、どのような問題意識や期待をもっていたか、聞かせてください。	<自由記載>					
設問17	この授業で良いと思った点があれば聞かせてください。	<自由記載>					
設問18	この授業で改善した方が良かった点について建設的な意見を聞かせてください。	<自由記載>					

